

有識者を対象としたアンケートの実施状況及び結果

アンケートの目的

生物多様性及び生態系サービスの総合評価に関する総合評価の信頼性の向上や意図するメッセージの明確化などを目的として、検討委員会の判断に加え、広く専門家の意見をアンケートにより聴取する。

アンケート対象者

信頼性の向上を目的の一つとすることから、一定の経験・知識を有する有識者を対象とするため、生物多様性及び生態系サービスに関係すると考えられる学会、学術団体の委員・役員、研究機関の職員等をアンケートの対象者とした。

アンケート実施方法

各学会等の会長宛てで、各学会事務局に依頼文書（環境省名）を送付し、アンケート対象者（委員、役員等）へのアンケートの転送を依頼した。

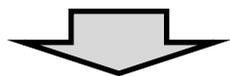
アンケートの回答にあたっては、その労力を小さくするため、ウェブのアンケートフォームから回答する方式とした。

アンケートは、2015年10月26日（月）から2015年11月16日（月）まで実施した。

アンケートの実施内容

第1回検討会においては、アンケートの内容を下表に示す2部構成とし、両者ともに第2回検討会までに終える計画としていたが、第1回検討会の結果を受け、本評価の内容を大幅に修正する必要性を認識したため、第1部のみを第2回検討会までに終える計画とし、第2部については第3回検討会までに実施する計画に変更した。

タイトル	内容	条件等	変更後スケジュール
第1部 特に劣化している生態系サービスについてのアンケート	【選択形式】 事前に提示された選択肢の中から、被調査者が特に重要と考えている生態系サービス、変化していると考えている生態系サービスを選択する。	後述の学会の委員・役員に対して各学会のメーリングリストを活用して送付し、ウェブ上で回答を頂く。	第2回検討会までに実施
第2部 生態系サービス及び人間の福利に関する評価に対する意見照会	【記述形式】 本検討会で提示した「資料3_生態系サービス及び人間の福利に関する評価結果」をご覧いただいたうえで、評価の妥当性について具体的な意見を頂く。 また、キーメッセージをより分かりやすく伝えるための研究事例に関する情報を頂く。	第2部は希望者のみ回答頂く形式とする。ただし、回答率を上げるためのインセンティブとして、所属・氏名を承り、総合評価報告書公表時に「協力者」として掲載する。	第3回検討会までに実施



実際に配布したアンケート内容（次ページ）

問1 ご回答者の所属学会、専門研究領域、年齢、勤務先等について

下記の項目について、お教えてください。

所属学会	
専門研究領域	
年齢	<input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70代以上
勤務先等	<input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 国公立研究所 <input type="checkbox"/> 民間会社 <input type="checkbox"/> NGO/NPO <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> その他 ()

問2 重要な生態系サービスについて

国内から得られる以下に挙げる生態系サービスのうち、人間の福利に対する影響という観点から、あなたが特に重要であると考えるものはどれですか。

該当するものを5つ選択してください。

供給サービス	<input type="checkbox"/> 米	<input type="checkbox"/> 畑作物
	<input type="checkbox"/> 特用林産物	<input type="checkbox"/> 畜産
	<input type="checkbox"/> 海面漁業・水産物・内水面漁業	
	<input type="checkbox"/> 淡水	<input type="checkbox"/> 木材
	<input type="checkbox"/> 原材料（繊維等）	<input type="checkbox"/> 遺伝資源
調整サービス	<input type="checkbox"/> 大気浄化	<input type="checkbox"/> 気候調節
	<input type="checkbox"/> 水量調整	<input type="checkbox"/> 水質浄化
	<input type="checkbox"/> 土壌侵食制御	<input type="checkbox"/> 地力の維持
	<input type="checkbox"/> 花粉媒介	<input type="checkbox"/> 洪水制御
	<input type="checkbox"/> 病虫害抑制	<input type="checkbox"/> 表層崩壊防止
	<input type="checkbox"/> 津波緩和	
文化サービス	<input type="checkbox"/> 宗教・祭り	<input type="checkbox"/> 教育
	<input type="checkbox"/> 景観	<input type="checkbox"/> 伝統芸能
	<input type="checkbox"/> 旅行・観光・レクリエーション	

問3 過去50年間における生態系サービスの変化について

国内から得られる以下に挙げる生態系サービスが、過去50年間にどのように変化してきたか、あなたの考えをお聞かせください。

各生態系サービスに対し、該当するものを選択してください。

回答項目		回答方法
供給サービス	農産物、林産物、水産物、淡水、木材、原材料	全項目に対して、「減少」、「やや減少」、「変化なし」、「やや増加」、「増加」、「わからない」のいずれかを選択
調整サービス	気候の調節、大気の調節、水の調節、土壌の調節、災害の緩和、生物学的コントロール（花粉媒介や病虫害抑制）	
文化的サービス	宗教・祭、教育、景観、伝統芸能・伝統工芸、観光・レクリエーション	

問4 過去20年間における生態系サービスの変化について

国内から得られる以下に挙げる生態系サービスが、過去20年間にどのように変化してきたか、あなたの考えをお聞かせください。

各生態系サービスに対し、該当するものを選択してください。

回答項目		回答方法
供給サービス	農産物、林産物、水産物、淡水、木材、原材料	全項目に対して、「減少」、「やや減少」、「変化なし」、「やや増加」、「増加」、「わからない」のいずれかを選択
調整サービス	気候の調節、大気の調節、水の調節、土壌の調節、災害の緩和、生物学的コントロール（花粉媒介や病害虫抑制）	
文化的サービス	宗教・祭、教育、景観、伝統芸能・伝統工芸、観光・レクリエーション	

問5 生態系サービスの利用状況について

国内から得られる以下に挙げる生態系サービスについて、現在の利用状況に関するあなたの考えをお聞かせください。

項目		回答方法
供給サービス	農産物	全項目に対して、「オーバーユースである」、「ちょうどよい」、「アンダーユースである」、「わからない」のいずれかを選択
	林産物	
	水産物	
	淡水	
	木材	
	原材料	
文化サービス	観光・レクリエーション	

※ 補足説明

- オーバーユース（環境容量を超えて利用している状況を指す）
- アンダーユース（里地里山のように、一定の利用がなされることにより状態が維持される環境において、利用が不足している状況を指す）

アンケート結果

アンケートに対する協力依頼は、既述の全ての学術団体等に対して行った。また、期間中、アンケートの電子メールが転送されていない可能性があると考えられた学術団体には、電話での追加依頼を行った。

11月16日時点で確認された、各学術団体の委員・役員への依頼数は、下表に示すとおり述べ810人であった。

区分	団体名	対象者	転送数 (確認済のみ)
学会、学 術団体	日本生態学会	役員・代議員・各専門委員長+委員	39
	日本緑化工学会	研究部会長	2
	日本地下水学会	不明	11
	日本湿地学会	役員	15
	生態系工学研究会	会員	48
	日本建築学会	理事、環境工学本委員会・農村計画本 委員会・地球環境本委員会の各委員	123
	日本景観生態学会		30
	日本水産学会	役員	23
	日本サンゴ礁学会	評議員	30
	農村計画学会	理事・幹事	22
	自然環境復元学会	学会の役員	13
	森林立地学会	幹事等	25
	応用生態工学会	理事幹事委員長	33
	汽水域研究会	関係者	16
	日本草地学会	関係者	4
	日本森林学会	—	0 (他の関連学会 から送信)
	日本造園学会	理事	20
	日本沿岸域学会	理事、各委員会の委員 (企画運営、会 誌編集、論文編集)	63
	日本水産工学会	常任幹事会	16
	砂防学会	理事	30
	日本農学会	—	傘下の 50 学会の 事務局に連絡
	土木学会	環境系委員会委員	123
	日本海洋学会	—	転送されたこと は確認したもの の、転送数は確認 中
	水資源・環境学会	—	
	環境法政策学会	—	
	日本海洋政策学会	—	
	日本陸水学会	—	
	水産海洋学会	—	
	水文・水資源学会	—	転送されたどう か、追加確認中
	日本海岸林学会	—	
	環境経済・政策学会	—	
	生態工学会	—	
	観光まちづくり学会	—	
林業経済学会	—		
応用森林学会	—		
環境社会学会	—		
人類働態学会	—		
J-BON 運営委員	J-BON 運営委員会のメーリングリスト	21	
国立環境研究所	研究員 ML	71	
IPBES の活動への参 画者	IPBES 専門家	32	
計 (延べ数)			810 名

アンケート回収数は、2015年11月16日時点で120件であった。各問に対する結果の概要を以下に示す。

問2 重要な生態系サービスについて

問2では、重要と考える生態系サービスを5つ選択頂いた。その結果、海面漁業・水産物・内水面漁業が最も多く選択され、水質浄化、淡水、景観、気候調節と続いた。一方、原材料（繊維等）や特用林産物、花粉媒介、津波緩和、畜産などは選択率が10%以下と少なかった。

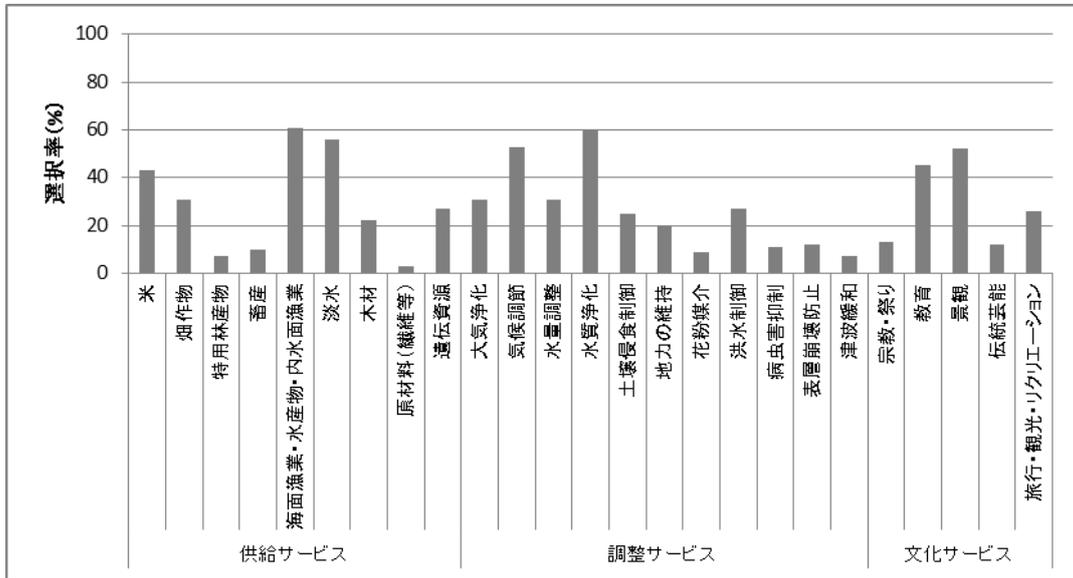


図1 重要な生態系サービス

問3 過去50年間ににおける生態系サービスの変化について

過去50年で見ると、多くの生態系サービスが減少もしくはやや減少傾向にあると評価された。一方、淡水、教育、旅行・観光・レクリエーションについては、増加もしくはやや増加と回答した割合が高い傾向にあった。

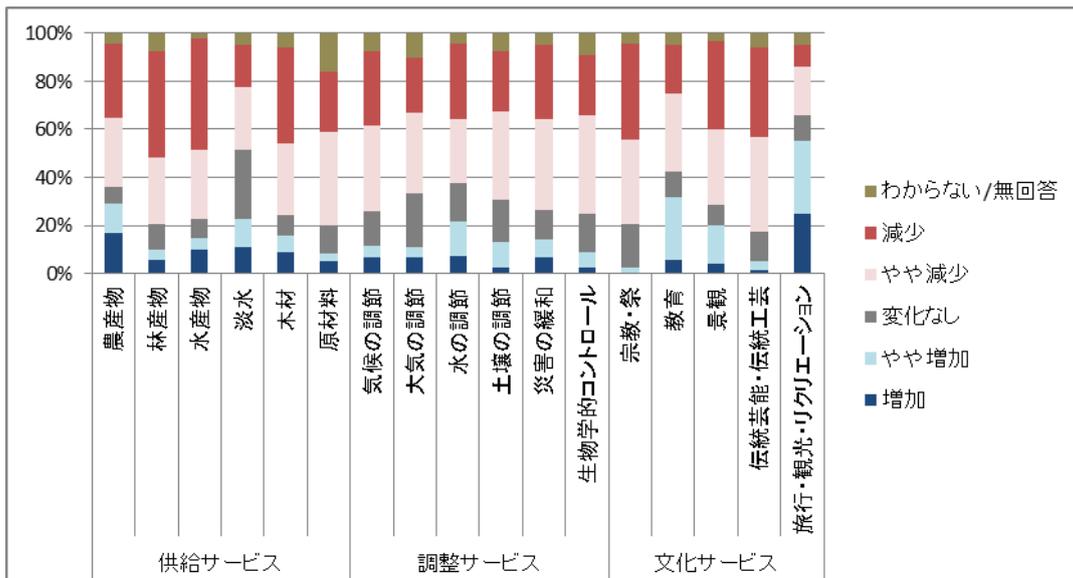


図2 過去50年間ににおける生態系サービスの変化

問4 過去20年間にける生態系サービスの変化について

過去20年で見ると、過去50年の結果と比べて、全体的に減少もしくはやや減少と回答した割合が少なく、変化なしと回答した割合が増加した。ただし、増加もしくはやや増加と回答した割合もほとんど増加しなかった。一方、淡水、教育、旅行・観光・レクリエーションについては、増加もしくはやや増加と回答した割合が高い傾向にあり、過去50年と同様の傾向であった。

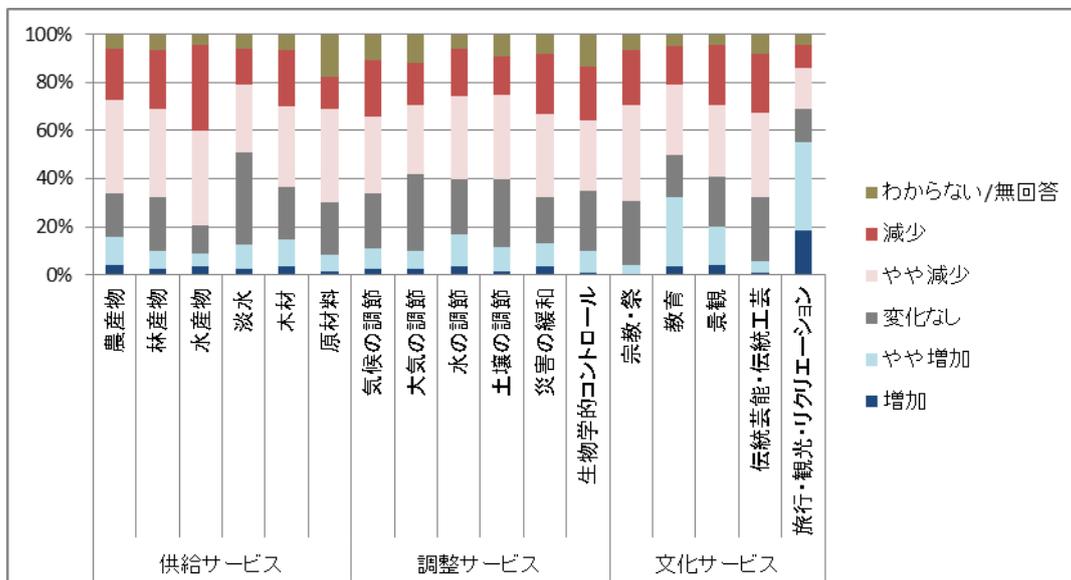


図3 過去20年間にける生態系サービスの変化

問5 生態系サービスの利用状況について

現状の生態系の利用状況について、オーバーユースであると回答した割合が最も高かったのは水産物で、次いで淡水が高かった。一方、農作物、林産物、木材はアンダーユースと答えた割合が高かった。

観光・レクリエーションについては、オーバーユースと回答した割合とアンダーユースと回答した割合がほぼ同じであった。原材料については、わからないと回答した割合が比較的高かった。

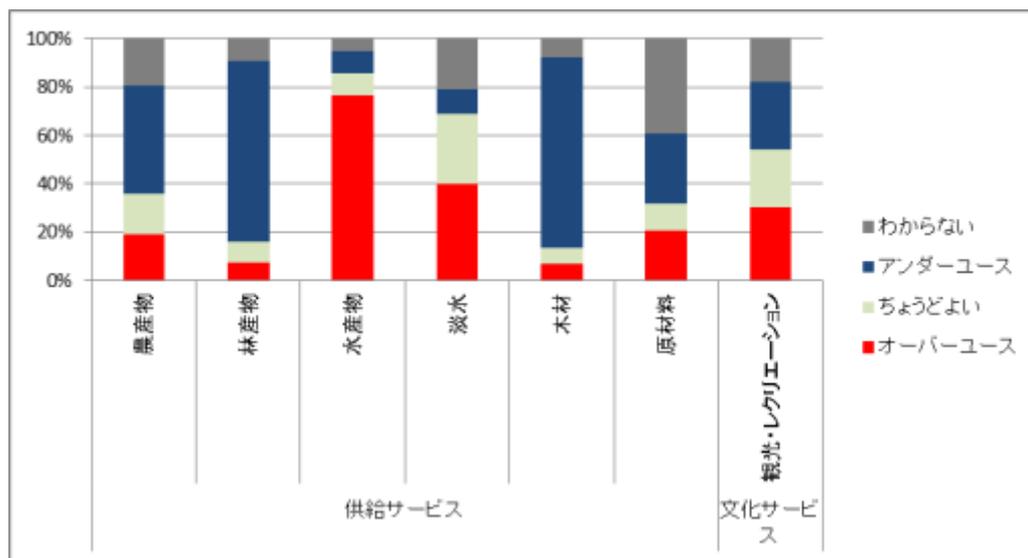


図4 生態系サービスの利用状況